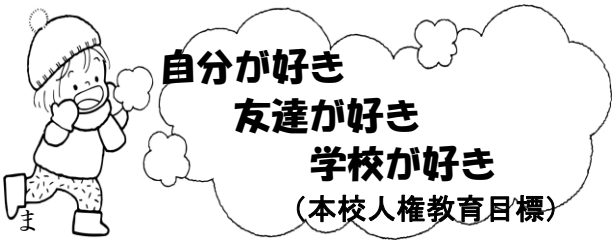
人権について考える

人権とは・・・人はだれでも、生まれながらにして持っている、人間が人間らしく生きる権利です。一人一人が大切にされ，幸せになるための権利、安心して自分らしく生きることができる権利です。そして、それはだれからも体や心を傷つけられたりしてはいけないことです。

学校は、すべての子どもたちにとって、安心して過ごせる場でなければなりません。これが人権が守られた学校だと思います。そのためには、友達を大切にする心を育てていかなければなりません。他者にやさしくできるためには、まず「自分が好き」「自分は大切にされている」という感覚が必要です。学校では、自己肯定感を高める取組を今後も続けて参ります。



ご家庭でもこの機会に「人権」「支援理解」についても是非子どもたちと話す時間を持っていただけたらと思います。

吹田市人権作品展に６年生の作品がたくさん入賞しましたので、その作品を紹介します。標語は全校朝会で紹介し、詩・ポスターは掲示板にて紹介しました。

心の糸　六年

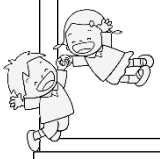
優秀

心の糸。それは、あなたの心の中にあります。
心の糸。それは、あなたとあなたの大切な人の心と心をつなぐ見えない命づなです。

どんなに長い年月をかけてつむいだ太い心の糸も、切ろうと思えばすぐに切れます。心の糸を切ろうとして言った一言が、はさみになってブチッと糸を切るのです。

心の糸。それはあなたの心の中にあります。
心の糸。それはあなたとあなたの大切な人の心をつなぐ見えない命づなです。

あなたの心の糸は、
今、だれとつながっていますか？



どっちが重い？　六年

特選

命の重さはどれくらい？
一人一つの命
その命が亡くなる
それを悲しむ人はどれくらい？
小さなケンカから始まる戦争
たくさんの命
たくさんの未来
たくさんの喜びまでもうばう
そして、悲しみと絶望だけがのこる
戦争は
人が人を殺す「じごく」をつくりだす。
罪悪感がつもり
深いきずあとがのこる

どっちが重い？
小さなケンカとたくさんの命

標語

肩落とす　君に声かけ　「どうしたの？」　（六年）　特選

さしのべて　その手をだれかが　求めてる　（六年）　優秀

何気ない　そのひとことが　傷つける　（六年）　佳作

幸福は　人に分けても　へらないよ　（六年）　佳作

明日へと　命のリレー　いつまでも　（六年）　優秀

いじめはね　おきてからでは　間に合わぬ　（六年）　入選

ポスター

佳作

ポスターは、吹田市人権作品展で掲示されており、まだ作品が戻ってきていないため、また改めて紹介します。

支援理解教育

11 月号学校便りでお知らせしましたように、10 月末から 12 月にかけて各学年の実態にあわせて、各ラスで支援理解教育に取り組みました。内容は学年によって異なりますが、大まかな内容と子どもたちの感想等について紹介させていただきます。

本校の子どもたちの実態として、残念ながら「障がい」という言葉への理解が不十分で相手をけなすことに使っている児童の存在があること、人を傷つける言葉があること、支援が必要な児童についての理解が十分ではないということがあります。このことを重く受け止め、「障がい」について正しく理解し、行動できるようになること、そして、一人ひとりが大切にされみんながすごしやすいクラス・学校づくりをめざし取り組みました。１時間の授業だけでなく、日々の取り組みを大切にしていくこと、継続して子どもたちの心を育てていくことに、力を注いでいかなければならないと思っています。

低学年　１年生では、絵本「つながろう～にがてをかえるまほうのくふう～」の教材を活用し、発達障がいのある友達への工夫や支援について考える学習をしました。２年生では、頑張ってもうまくいかないことを責められて悲しい友達の気持ちや自分の経験を出し合い、言われてうれしい気持ちになる言葉がけについて考えました。

中学年　「なにができるかな、なにができるかな」(※下記参照)の教材を活用し、病気で体が弱い友達・読み書きが苦手な友達、集中することや気持ちのコントロールが苦手な友達について、それぞれの場面での気持ちを考える学習をした後、自分たちにできることが何か考えました。

高学年　「なにができるかな、　なにができるかな」の教材を活用し、様々な苦手さのある友達について、それぞれの場面での気持ちを考える学習をした後、自分たちにできることが何か考えました。その後、５年生では、障がい者スポーツなどに挑戦されている人のように、障がいを乗り越えて生き生きと生活をされている人たちのことも紹介し、「障がい」という言葉についてのマイナスイメージを取り除くような学習をしました。６年生では、ノーマライゼーションについても広げて考え、自分たちの生活の中で振り返り、最高学年として吹田第二小の中でできることについて考えました。

「うまくやりたくても、なかなかうまくできない友達がいること。それは、本人が努力していないからではなく、一生懸命やっていてもなかなかうまくいかないことがあるということ。」について理解し、困っている友達がいたら、どんな声かけをしたらよいか、について考えました。これは、使用した教材に出てくる困り感のある子どもたちの一部です。

本を読むのがとても苦手。がんばっているけれど、つっかえたりまちがえたりしてしまうんだ。

身体が弱くてみんなと同じように遊んだり、走ったりできないの。

みんなと同じことをするのが苦手。先生に言われたことをちゃんとできなくて、いつも注意されてしまうんだ。

いろいろなものが見えにくいんだ。近寄らないと友達の顔もよくわからないよ。

●○●子どもたちの振り返りカードより●○●）

○きつい言葉を言わない。みんなでなかよくする。やさしく声をかける。なかまはずれにしない。みんなで頑張る(1 年)

○「だいじょうぶ？」と声をかける。おこっているときは、何かあったのかを聞く。みんなにがてがあるとわかった。人の気持ちを考えることが大事(2年)

○ふわふわ言葉で声をかける。失敗しても笑わない。できないことを手伝う。障がいのある人もない人もみんな同じ(3年)

○やさしく教えてあげる。何して遊びたいか聞いて一緒に遊ぶ。がんばっている人を応援する。一人ひとり大切な友達。一つの言葉でも複数の受け取り方がある。相手がどう思うか考えて声掛けしないといけない。(4年)

○その人のためになることを考えてアドバイスする。誰にだってできることとできないことがあるから、それをわかってあげる。みんなができる楽しいことをする。自分で状況を思い浮かべて、相手の気持ちを考える。(5年)

○誰にでも苦手なことがあると思っておくことが大切。頑張ってできることは手伝う、頑張ってもできないことなら、その子に少し合わせてみんなが楽しく過ごせるようにする。友達がしたいことを我慢して苦手な自分に合わせて遊んでくれてうれしかった。(6年)

子どもたちの心を育てていくことは、学校だけではなかなかできません。ご家庭にもご理解いただき一緒に考えていただければと思います。